

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)京田辺ロジスティクスセンターPJ新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境							0.30			3.2
1	音環境					3.6	0.15			3.6
1.1	室内騒音レベル					3.0	0.40			
1.2	遮音					4.2	0.40			
1	開口部遮音性能	AWIは全てT-2				5.0	0.60			
2	界壁遮音性能					3.0	0.40			
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4	界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3	吸音	床:カーペット、天井:ロックウール吸音板を採用				4.0	0.20			
2	温熱環境					3.0	0.35			3.0
2.1	室温制御					3.0	0.50			
1	室温					3.0	0.38			
2	外皮性能					3.0	0.25			
3	ゾーン別制御性					3.0	0.38			
2.2	湿度制御					3.0	0.20			
2.3	空調方式					3.0	0.30			
3	光・視環境					3.1	0.25			3.1
3.1	屋光利用					3.0	0.30			
1	屋光率					3.0	0.60			
2	方位別開口									
3	屋光利用設備					3.0	0.40			
3.2	グレア対策					3.0	0.30			
1	屋光制御					3.0	1.00			
3.3	照度	全般照明により事務室は照度700lxとした				4.0	0.15			
3.4	照明制御					3.0	0.25			
4	空気質環境					3.5	0.25			3.5
4.1	発生源対策					4.0	0.50			
1	化学汚染物質	F☆☆☆☆による材料を採用				4.0	1.00			
4.2	換気					3.0	0.30			
1	換気量					3.0	0.33			
2	自然換気性能					3.0	0.33			
3	取り入れ外気への配慮					3.0	0.33			
4.3	運用管理					3.0	0.20			
1	CO ₂ の監視									
2	喫煙の制御					3.0	1.00			
Q2 サービス性能							0.30			3.4
1	機能性					3.4	0.40			3.4
1.1	機能性・使いやすさ					3.3	0.40			
1	広さ・収納性	事務室一人あたりの執務スペースを9.7㎡/人とした。				4.0	0.33			
2	高度情報通信設備対応					3.0	0.33			
3	バリアフリー計画					3.0	0.33			
1.2	心理性・快適性					4.0	0.30			
1	広さ感・景観	事務室の天井高さを2.7mとした。				4.0	0.33			
2	リフレッシュスペース	ラウンジ(ホール)設け(24%)、自動販売機を設置した				5.0	0.33			
3	内装計画					3.0	0.33			
1.3	維持管理					3.0	0.30			
1	維持管理に配慮した設計					3.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保					3.0	0.50			
2	耐用性・信頼性					3.1	0.30			3.1
2.1	耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能					3.0	0.20			
2.2	部品・部材の耐用年数					3.4	0.30			
1	躯体材料の耐用年数					3.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	主用途2種の、1種以上をB以上(硬質塩ビ管)とし、Eは不使用とし				5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20			
2.4	信頼性					3.2	0.20			
1	空調・換気設備					3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備					3.0	0.20			
3	電気設備					3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法	耐震クラスAを採用				4.0	0.20			
5	通信・情報設備					3.0	0.20			

3	対応性・更新性		3.9	0.30	-	3.9
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	
	1 階高のゆとり	十分なゆとりある階高を確保した。	5.0	0.60	-	
	2 空間の形状・自由さ	用途、設備の変更の容易性に配慮した。	5.0	0.40	-	
	3.2 荷重のゆとり	ゆとりのある荷重設定とした。	4.0	0.30	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.40	-	2.4
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	3.6
LR1	エネルギー		-	0.40	-	3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	モデル建物法による計算	2.6	0.20	-	2.6
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	3.0
3	設備システムの高効率化	モデル建物法による計算	5.0	0.50	-	5.0
4	効率的運用		3.0	0.20	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	3.7
1	水資源保護		3.4	0.20	-	3.4
	1.1 節水	節水型衛生器具の採用	4.0	0.40	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	
2	非再生性資源の使用量削減		4.0	0.60	-	4.0
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.14	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	-	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.29	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	路盤材:再生クラッシュラン/床材:ビニル系およびタイルカーペット	5.0	0.29	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	乾式間仕切壁の採用、OAフロアの採用	5.0	0.29	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODPおよびGWPの低い断熱材の採用	4.0	0.50	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	3.3
1	地球温暖化への配慮	LGCO2排出量削減に配慮した。	3.8	0.33	-	3.8
2	地域環境への配慮		3.0	0.33	-	3.0
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	
	3 交通負荷抑制	適切な駐輪、駐車場スペース等を確保した。	5.0	0.25	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	
	2 振動	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明は最低限の範囲に設置、広告物照明は行わない計画とし	4.0	0.70	-	
	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)京田辺ロジスティクスセンターPJ新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	1.0	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	2.0	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	-	1.0	3.0	-	-	-	2.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主な指標															
Q1 室内環境															
窓システムSC 0.5 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -															
3.1.1 昼光率 1.8%															
4.2.2 自然換気性能 自然換気有効開口面積率 3.3%															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性 執務スペース 9.7㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡															
1.1.2 高度情報通信設備対応 コンセント容量 30.0 VA/㎡															
1.2.1 広さ感・景観 天井高 2.7 m															
1.2.2 リフレッシュスペース 24.0% レストスペース 2.0%															
2.2.1 躯体材料の耐用年数 想定耐用年数 30 年															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 想定必要間隔 20 年															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 想定必要間隔 0 年															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔 想定必要間隔 0 年															
3.1.1 階高のゆとり 階高 5.95~6.1m															
3.1.2 空間の形状・自由さ 壁長さ比率 7.0%															
3.2 荷重のゆとり 床荷重 5000 N/m2															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出 外構緑化指数 20% 建物緑化指数 0%															
3.2 敷地内温熱環境の向上 空地率 44% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 9% 舗装面積率 35%															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制 BPI/BPI _m 0.98 断熱等性能等級 等級2 相当															
2 自然エネルギー利用 自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%															
3 設備システムの高効率化 通過を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%															
BPI/BPI _m 非住宅 0.59 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無 雨水利用率 0.0%															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 特定調達品目 - エコマーク商品 再生クラッシュラン自給林産物特定品目等 -															
2.5 持続可能な森林から産出された木材 使用比率 5.0%															
3.2.1 消火剤 オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)															
3.2.2 発泡剤(断熱材等) オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3															
3.2.3 冷媒 オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善 見付面積比 60% 隣棟間隔指標Rw 1.69															
地表面対策面積率 9.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%															
見付面積S _b 1,561㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 125.07 m 基準高さH _b 20.48 m															
緑地 1,155㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡															